

文化通信

2011年(平成23年)
2月14日(月曜日)
第3925号
定価・月ぎめ3,600円(消費税込み)
(毎週月曜日発行)

地域へ全力 NET21

3月に近刊受注新端末発表



大野 裕彦社長

大野 裕彦社長
お客さんに売れる本

NET21新春の会が2月2日、東京・港区のANAインターコンチネンタルホテル東京で開かれた。大野裕彦社長(中原アックランド)が今年の基本方針として、「街の本屋の機能強化」「地域読者へのアピール」に取り組みと述べた。さらに光和コンピューターとの共同企画として、近刊情報から予約受注するシステムを3月にリリースすることを発表した。

会には出版社129社「アピール」を掲げ、店舗運営を、皆の力で確保して売り上げを上げる基盤ができると思ふ。出版社とともにNET21の力を発揮する1年にしていただければありがたいと述べ乾杯した。

光和コンピューターと共同企画

続いて、NET21と光和コンピューターとの共同企画について田中淳一郎副社長(恭文堂)が説明。さらに詳細を光和コンピューター・柴崎和博社長が、日本出版インフラセンター(JIPO)の近刊情報をサイトを通じて書店に提供し、出版社への注文予約ができる新しい端末「MURBO(仮

出版

流通・販売

称)を開発し、店頭で読者が近刊情報をサインシートで見たいと、サイト、端末は3月末に業界に発表する予定」と述べた。

また、昨年加入した千歳書店の土地進出、守西氏が紹介された。

最後に吉見光太郎常務(吉見書店)が「今年もMVP級の活躍をしていきたい」と述べた後、三本締めで閉宴した。

「とお礼のあいさつを述べ、朝日新聞出版・黒河晃代表取締役常務が、「街の書店がコンビニエンスストアになるには、買いたい本雑誌がそろっているようにしないといけない。それは出版社の責任、義務と思ふ。NET21の書店さんの受注を確保する面で努力していきたい」と述べた後、三本締めで閉宴した。